

信州大学における ポリシー検討に向けた状況

2020年12月9日

信州大学附属図書館 情報システムグループ主査
岩井雅史

ポリシーの策定に向けたステップ

2019年度

附属図書館年度計画
「オープンアクセス方針の
策定に向けた検討」
「オープンサイエンス
推進部会」の設置

2020年度

部会でアンケートや
インタビューを実施
部会でポリシーの検
討を開始
学長へレク

2021年度

部会でポリシー案を
策定
学術情報・図書館委
員会⇒役員会 承認

「オープンアクセス方針」として出発
その中で研究データも扱う方向
研究データ“管理”については別途となる

研究データに関する体制の現状

2018/3	研究データの保存等に関する ガイドライン	研究担当 理事裁定
	このタイミングで、GakuNin RDM等の動向について研究推進部と情報交換・意見交換	
2019/3	将来的に保存先として 「GakuNin RDMを視野に」 検討を行うことを了承	不正行為 防止計画 推進室会議
2019/7	オープンサイエンス推進部会 設置	附属図書館

オープンサイエンス推進部会

- 位置づけ： 学術情報・図書館委員会の下
- メンバー： 各学部の教員＋図書館職員
 - 附属図書館情報システム担当で事務局担当
- 目的： オープンアクセス・オープンサイエンス方針の検討
 - 下準備として、アンケートやインタビュー、啓発なども実施

アンケート

- 2020年10月20日～11月20日実施
- AXIESのひな型をベースに改変して使用
- 各学部で事前に説明会
 - 「研究データ」「研究データ管理」「ポリシー」の定義・意味について認識を共有
 - ただし、まだ「オープンアクセス」＝「粗悪誌」のようなイメージがあり、今後も丁寧な周知が必要

インタビュー

- 2019～2020年度に実施
- 異なる部局から6名
 - 人文、教育、医学、工学、農学、繊維
- これまでの意見
 - 論文のオープンアクセスはOK
 - データのオープン化には懐疑的
 - データ管理についても、縛りがきつくなるのは困る。
研究者のフリーハンドはできるだけ大きくしたい。

他部局との検討状況

■ 研究推進部

- GakuNin RDMの活用について意見交換
⇒ 研究データ保存の方向性に反映
- 今後のポリシー検討においても随時意見伺い

■ 総合情報センター

- ストレージ等のシステム面について支援を要請
- GakuNin RDMを利用する場合のストレージや運用について意見交換

検討中のポリシーのカバー範囲

- オープンアクセス ○
- オープンデータ ○
 - ポリシーの素案では、論文等の関連データも、原則オープンの対象としている
- データ管理 ×
 - 部会の役割(さらには図書館の所掌)からずれる
 - 研究公正ガイドラインとの関係もあり、研究推進部とさらなるコミュニケーションが必要

今後について

- アンケートやインタビューの結果、OAポリシーについては、理解は得られそうな感触
- 時間がタイトなので、文言の検討をどこまで深められるか
- “やらされ感”をいかに無くすか
- 研究データ“管理”へどのようにつなげていくか
 - 研究データに関する議論を一度やったので、少なくとも関係者の間では理解は深まった(と思いたい)